

令和5年度

事業報告

社会福祉法人 能美市社会福祉協議会

## 令和5年度事業報告

令和5年度は、新型コロナ感染症が、5月に5類に移行したことで、感染対策の制約が緩和され、日常生活における様々な活動が再開された年でありました。また、課題となっている「地域力の低下」や「地域福祉活動の担い手不足」等に対し、能美市においては、デジタル化による見守りや生活支援の取り組みが具体的に始まった年であり、令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、被災地の人々の互いに助け合う姿や、全国から駆け付けるボランティアの姿から、自助・互助の助け合いの大切さを再認識することになりました。

このような中、私たちは、更に地域コミュニティの在り方やセーフティネットの構築に、いかに取り組んでいくかという知恵と工夫が求められていると考えています。

法人運営においては、役員研修として、様々な機会を捉えて参加し、「共生社会の推進」について知識を深めました。会員会費の募集については、「推進月間」を7月とし、以降市民の協力を得ながら取り組み、福祉のまちづくりへの理解と参加を働きかけました。

能美市社会福祉大会については、10月に福祉功労者等表彰の贈呈式、引き続き、さわやか福祉財団の清水理事長を講師にお招きし、講演会という形で開催しました。

また、社協広報誌、ホームページ、フェイスブックやインスタグラム等、SNSによる福祉・ボランティアの情報発信の強化に取り組みました。

第4次能美市地域福祉活動計画の2年目は、能美市が進める「地域共生社会」の各事業と連携しながら、活動計画を推進する3委員会（以下「3委員会」という）と進捗状況を確認するための「こころ豊かな地域づくりの会」の活動に取り組みました。

進捗状況を市民に報告する機会である「春 まち ぽかぽか プロジェクト」は、3委員会からの活動報告と「こころ豊かな地域づくりの会」の一年間の取り組みを総括した内容で開催し、ダイジェスト版の動画を作成し、ホームページにアップするなどしました。年度末には2年目の推進にかかる評価委員会を開催し、各委員会からの自己評価及び3年目に向けての視点と取り組み方策を確認しました。（評価委員会の評価は別途報告）

能美市から受託した「地域福祉委員会活動推進員養成・活動支援事業」、「生活支援サービス基盤整備事業」及び「地域力強化推進事業」は、地域福祉活動の基礎組織として町会・町内会に設置された地域福祉委員会が、町会の中で生活上の困りごとの課題や個別の支援について話し合い、見守りや助け合いの活動に取り組めるよう支援しました。

いきいきサロンや地域福祉委員会については、コロナによる活動自粛から次第に再開され出し、開催回数も増加、担当職員（CSW=コミュニティソーシャルワーカー（以下、「CSW」という）が地域に出向き、情報提供や課題の把握等、活動の支援を行いました。

生活支援としては、賞味期限が残っている食糧をご寄付頂くフードドライブ及び、支

援を必要としている方々にお配りするフードパントリーをそれぞれ開催したほか、移送支援として地域福祉委員会へ車両つなぐ号を貸し出すなどし、住民レベルの生活支援の活動に取り組めるよう支援をしました。

能美市から受託した「生活困窮者自立相談支援事業」では、生活に困窮する方々の相談支援の機関として、傾聴等による寄り添いやアウトリーチ、そして「家計改善支援員」による家計相談を行い、他機関とのネットワークによる支援等に配慮し、一人ひとりの状況に合わせた支援を行いました。

同じく能美市から受託した「成年後見制度利用促進事業」は、成年後見制度の周知、利用に関する相談、及び権利擁護支援の地域連携ネットワークづくりに取り組み、市民に身近な相談機関として周知啓発のための研修会や出前講座等も開催しました。

また、石川県社会福祉協議会から受託した「生活福祉資金貸付利用相談事業」では、新型コロナウイルスの感染症の影響による休業や失業で生活資金にお悩みの方への生活福祉資金貸付制度の特例制度（緊急小口資金・総合支援資金）が令和4年9月末で終わり、令和5年1月からその償還が開始されたことを受け、償還が困難な方への相談を中心に市民の生活を支えるための相談に対応しているところです。

同じく石川県社会福祉協議会の受託事業である「福祉サービス利用援助事業」では、各地区あんしん相談センター、医療機関、消費生活相談室、弁護士会、福祉事務所等の連携が進み、利用に関する相談や利用件数も伸びてきました。

ボランティア・コミュニティ活動支援センターの運営では、ボランティア講座の開催を通じて、若い世代への福祉教育を継続的に進める中で、ジュニアボランティアクラブでは、令和3年度に引き続き、市内の社会福祉法人にも協力を頂き、明日を担う子供たちとその親世代に対して、ボランティア意識の醸成に取り組みました。

しかし、コロナ禍の影響を受け、ボランティアグループの活動休止や自粛等が長引いており、ボランティアの高齢化とともにセンターに登録するボランティアグループ数や会員数が減少しており、交流の場、連携の場、学びの場等を工夫しながら開催し、人材発掘、人材育成に取り組んでいるところです。

寺井あんしん相談センターの運営については、精神障害、アルコール依存症、8050問題、支援拒否など、多様で複合的なケースや外出の機会が減った高齢者に対する介護予防の周知啓発等に重点的に取り組みました。

能美居宅介護支援事業所については、令和6年3月末日をもち、地域における社会福祉協議会の事業所としての役割を終えたとし、廃止としました。

老人福祉センター「白寿会館」については、11月には大規模改修による全館休館もありましたが、更に利用しやすい施設として、高齢者等の生きがいづくり、介護予防や社会参加の機会を継続して運営しました。

最後に令和6年1月1日に発生した能登半島地震により、能登地方はライフラインの寸断、家屋の倒壊等、甚大な被害を受けました。被災地の復興支援に加え、避難を余儀なくされた方々のための避難所が各地に設けられ、能美市でも、市内5ヶ所に2次避難所・広域避難所が開設されました。本会では、石川県、能美市、石川県社会福祉協議会からの要請を受け、支援のための「避難所巡回相談業務」、「生活サポート窓口業務」、「ボランティアマッチング業務」、「避難者送迎サービス業務」、「被災地災害ボランティアセンターへの職員派遣業務」、「生活福祉資金の特例貸付業務」及び「被災者見守り・相談支援等業務（みなし仮設住宅への訪問）」を受託し、被災者・被災地への支援を行いました。現在も継続中のこれらの業務には、多くの市民、団体、ボランティアの方々の協力を頂きながら、迅速に対応、支援をすることができました。

依然として厳しい経済状況に加え、地震による被害からの復興支援が長引いている中ではありますが、これまでのノウハウをベースに、市民力を生かした能美市らしい「共生社会の実現」の推進に寄与することができたことを報告します。

令和5年度における事業の状況は、次のとおりであった。

## 1. 住民参加・住民主体で地域福祉を推進する社会福祉法人の運営

### (1) 理事会、評議員会、各種委員会の開催

①理事会（5回）、評議員会（4回）、評議員選任・解任委員会（2回）、監査会（1回）をそれぞれ開催した。

会議名	開催回数	開催日	開催場所	案件	出席人数
理事会	第78回	6月6日	ふれあい プラザ	①令和4年度事業報告、会計計算書類 及び財産目録の承認について (監査報告) ②評議員の選任候補者の推薦について ③第16回評議員選任・解任委員会の招 集について ④任期満了に伴う次期役員候補者につ いて ⑤社会福祉法人能美市社会福祉協議会 理事、監事及び評議員の報酬等に關す る規程の一部改正について ⑥定時評議員会(第72回評議員会)の招 集について	理事10名 監事2名
	第79回	6月20日	辰口福祉 会館	①会長の選定について ②副会長の選定について ③常務理事の選定について	理事9名 監事2名
	第80回	11月28日	ふれあい プラザ	①令和5年度会計収支1次補正予算 (案)について ②社会福祉法人能美市社会福祉協議会 能美居宅介護支援事業所の廃止につ いて ③第73回評議員会の招集について	理事11名 監事1名
	第81回	2月27日	書面表決	①理事候補者の選定について ②第74回評議員会の招集について ③評議員選任候補者の推薦について ④第17回評議員選任・解任委員会の招 集について	理事11名 監事2名

理事会	第 82 回	3 月 19 日	ふれあい プラザ	①令和 5 年度会計収支 2 次補正予算 (案) について ②定款の一部変更について ③令和 6 年度業計画 (案) 及び会計収 支予算 (案) について ④第 75 回評議員会の招集について ⑤役員等賠償責任保険契約について	理事 8 名 監事 1 名
評議 員会	第 72 回	6 月 20 日	辰口福祉 会館	①令和 4 年度事業報告、会計計算書類 及び財産目録の承認について (監査報告) ②任期満了に伴う次期役員の選任につ いて ③社会福祉法人能美市社会福祉協議会 理事、監事及び評議員の報酬等に關す る規程の一部改正について	評議員 16 名 監事 2 名
	第 73 回	12 月 6 日	ふれあい プラザ	①令和 5 年度会計収支 1 次補正予算 (案) について ②社会福祉法人能美市社会福祉協議会 能美居宅介護支援事業所の廃止につ いて	評議員 15 名 監事 2 名
	第 74 回	3 月 5 日	書面表決	①理事の選任について	評議員 21 名
	第 75 回	3 月 26 日	ふれあい プラザ	①令和 5 年度会計収支 2 次補正予算 (案) について ②定款の一部変更について ③令和 6 年度業計画 (案) 及び会計収 支予算 (案) について	評議員 17 名 監事 1 名
評議員 選任・ 解任 委員会	第 16 回	6 月 13 日	ふれあい プラザ	評議員の選任	委員 3 名
	第 17 回	3 月 12 日	書面表決		委員 5 名
監査会	5 月 22 日		ふれあい プラザ	令和 5 年度監査	監事 2 名

②役員等研修及び合同懇親会を開催した。

・役員及び評議員合同懇親会

日 時：6 月 20 日（火）18 時 00 分～20 時

会 場：辰口福祉会館

参加人数：19 名

- ・市町社会福祉協議会・共同募金委員会トップセミナー
 

日 時：9月20日（水）13時30分～16時00分  
     会 場：ホテル金沢  
     内 容：「地域福祉を推進する社協組織マネジメント」  
     講 師：元宝塚市社会福祉協議会 常務理事 佐藤 寿一 氏  
     参加人数：8名
- ・役員等研修(第19回能美市社会福祉大会 第2部記念講演)
 

日 時：10月21日（土）14時40分～15時45分  
     会 場：辰口福祉会館  
     講 演：「今、助け合いを広める時」  
     講 師：公益財団法人 さわやか福祉財団 理事長 清水 肇子 氏  
     参加人数：15名（社会福祉大会総数151名）

③第4次能美市地域福祉活動計画の推進委員会及び評価委員会等を開催した。

- ア 推進のための3委員会
  - ・こころに寄り添い合う人づくり委員会・・・11回開催
  - ・見守り・助け合い推進委員会・・・10回開催
  - ・くらし応援委員会・・・11回開催
- イ 進捗状況を確認し合うための委員会
  - ・こころ豊かな地域づくりの会・・・4回開催
- ウ 年度ごとの推進状況を評価するための委員会
  - ・評価委員会・・・3回開催

④表彰審査会の開催（社会福祉功労者等表彰・能美たすかったわ～大賞・“きらり★ふくしの魅力”フォトコンテスト）各1回開催した。

## **(2)会員会費の募集**

①年間を通じて会員会費の募集に取り組み、特に7月を募集推進月間として、まちぐるみで地域福祉活動を進める気運を盛り上げた。・・・資料1

## **(3)社会福祉大会の開催**

①第19回能美市社会福祉大会を開催し、地域福祉活動に功績のあった個人や団体に社会福祉功労者等表彰を授与し、地域ぐるみの福祉意識の気運を盛り上げた。

- 日 時：10月21日（土）13時30分～15時45分  
     会 場：辰口福祉会館  
     社会福祉功労者表彰を25名6団体に授与  
     講 演：「今、助け合いを広める時」  
     講 師：公益財団法人 さわやか福祉財団 理事長 清水 肇子 氏  
     参加人数：151名

#### (4) 春 まち ぽかぽか プロジェクトの開催(2月24日(土)~3月3日(日)の9日間)

- ①第4次能美市地域福祉活動計画の2年間のまとめの報告と関連事業を開催した。  
(計19プログラム)
- ②ボランティア等活動紹介のパネル展示「ふくしの魅力発信！！ぽかぽかパネル展示」を開催した。
- ③「能美たすかったわ～大賞」は、大賞1点、一般の部優秀賞3点、小学生の部優秀賞5点を表彰した(応募総数1,128作品)  
「“きらり★ふくしの魅力”フォトコンテスト」は、最優秀賞1点、優秀賞2点、審査委員特別賞1点を表彰した。(応募総数51作品)
- ④フードドライブを実施した。
- ⑤ぽかぽか演芸ショーを、老人福祉センター白寿会館で開催した。

#### (5) 福祉、ボランティア情報の発信

- ①広報誌「ほほえみ」(年4回) ほほえみ72号から75号を発行した。
- ②地域福祉・ボランティア活動報告集を発行した。・・・[資料2]
- ③ホームページの他、フェイスブック・インスタグラムを随時更新し運営した。
- ④支え合う福祉のまちづくり講座を開催した。・・・24回開催 受講延べ人数487名  
[資料3]

#### (6) 愛の福祉基金事業の実施

- ①市民の善意による寄付金(7件総額2,300,021円)を愛の福祉基金として積み立てた。

## 2. 社会福祉関係者が一丸となった地域福祉活動への支援

### (1) 福祉関係者が行う地域福祉活動への支援(コミュニティソーシャルワーカー(CSW)の配置)

- ①地域福祉委員会をそれぞれ開催した。

	地域福祉委員会への支援	根上地区 寺井地区 辰口地区	21ヶ所 23ヶ所 47ヶ所	91ヶ所	市内全町(内)会に設置済み。
1	活動ヒント探し講座 「入門編」の開催	8月30日 ～11月9日 (全4回)	地域福祉に対する理解のための入門的研修及び実習	17町(内)会より、講座受講修了者20名を地域福祉委員会活動推進員に登録した。 ※登録累計455名	
	活動ヒント探し講座 「実践編」の開催	9月5日 ～11月21日 (全3回)	各町(内)会で地域の課題把握のための手法として「住民交流マップづくり」を行った。	地域福祉委員会活動推進員のいる3地域・地区福祉委員会が受講した。参加者は10名(寺井町、上開発町、下清水町)	

	「活動推進会議」の開催	①7月11日 「地域福祉委員会活動連絡会」 会場：寺井地区公民館 ②2月25日 「地域福祉セミナー」 会場：根上総合文化会館	①地域福祉委員会の必要性について理解促進を図り、地域での見守り・助け合い活動を推進した。 ②地域福祉委員会における助け合い活動の拡充と周知、啓発を図った。	①参加人数 169名  ②参加人数 70名 令和5年度に実践編を修了した地域福祉委員会84地域(地区)福祉委員会
2	いきいきサロン活動への助成  ※いきいきサロンとは町(内)会、単位で行われている高齢者等の閉じこもりの予防や見守りのつどい	根上地区	設置数 20ヶ所 延べ参加者数 延べボランティア数	開催回数 280回 4,811名 1,492名
		寺井地区	設置数 22ヶ所 延べ参加者数 延べボランティア数	開催回数 433回 5,030名 1,284名
		辰口地区	設置数 37ヶ所 延べ参加者数 延べボランティア数	開催回数 353回 4,854名 1,041名
		会員会費を財源とし、いきいきサロン活動費 総額 3,152,300円を助成		
3	一人暮らし高齢者昼食会への助成	地域福祉委員会（いきいきサロン）が自治公民館等を会場に開催する一人暮らし高齢者昼食会に対し、助成した。		実施町(内)会 38町(内)会 参加人数 253名 対象者1名あたり700円を助成、 総額 177,100円を助成
	おでかけサロンへの助成	地域福祉委員会（いきいきサロン）で一人暮らし高齢者を含む参加者同士が、交流しながらおでかけする機会に対し、助成した。		実施町(内)会 31町会 実施回数 46回 参加人数 延べ915名 1町(内)会年3回まで 7,500円を助成、 総額 345,000円を助成
4	いきいきサロンボランティアと福祉推進員合同研修会の開催	10月31日（火） 会場：ふれあいプラザ	講演：「身近な暮らしの場での居場所・見守り・助け合い活動を考える」 講師：ローカリズム・ラボ 代表 井岡 仁志氏	参加人数 66名
4	福祉推進員の研修	・研修に向けて福祉推進員連絡会を1回開催 ※いきいきサロンボランティア研修会と合同開催		活動費 1人当たり 5,000円 125名 総額 625,000円を助成

5	地区担当職員 (CSW) 11名の配置 (兼務) ※地区担当制	ア 開催の案内のあった地域福祉委員会の会合 504回の内、要請に応じ CSW は 126 回出務した。 イ 地域の課題を持つ人にかかる地域の支援者の後方支援を行い、地域づくりをすすめた。また、日常生活の困りごとのニーズ把握や解決に向け関係機関や地域と連携を図り、地域との関係づくりをすすめた。 ウ 住民流支えあいマップづくりを支援した。
---	---------------------------------------	--

- ②市及び 3 地区の民生委員児童委員協議会の事務局を担当し、活動を支援した。
- ③福祉団体（市・3 支部の老人クラブ連合会、市・3 支部の身体障害者福祉協議会、市母子寡婦福祉連合会）の各事務局を担当し、活動を支援した。
- 地域福祉活動を推進するグループや団体の事務局を担当し、活動を支援した。
- ・ まだまだ元気な高齢者サポートグループほがらか会の事務局を担当し活動を支援したほか、利用者の送迎用車両を貸出した。
- ※ほがらか会は、能美市の総合事業の通所 B（住民主体の通いの場）にあたる活動

ほがらか会の開催状況は下記のとおり

施設名	開催日と開催回数	延べ参加者数	延べボランティア数
根上会場 老人福祉センター 「白寿会館」	毎週木曜日・49回	258名	220名
寺井会場 能美市地域共生 交流館	毎週金曜日・46回	208名	92名
辰口会場 辰口福祉会館・ 岩内 CC 館	毎週火曜日・49回	252名	100名

※辰口会場：令和 6 年能登半島地震により辰口福祉会館が広域避難所となつたため 1/23(火)より  
岩内 CC 館にて実施

- ・能美市民防災ネットワーク（委員 14 名 + オブザーバー 1 名）の事務局を担当し、共に活動した。
- ※町会・町内会、青年団、婦人会、民生委員・児童委員、防災士、子育て支援団体等によるネットワークの会。防災意識の醸成や啓発、助け合いを基盤とした災害時の災害ボランティアセンターの周知などを目的とした活動を行う。
- 定例会 6 回、能美市防災フェスタ、ボランティアフェスティバルに参加  
研修会 1 回（春 まち ぽかぽか プロジェクト）

- ④のみ社会福祉法人連絡会の事務局を担当し、活動を支援した。
- ・市内 9 法人で組織。社会福祉法人が地域福祉の担い手として地域の福祉ニーズの解決のため、それぞれの専門性を活かしながら、連携して地域公益活動に取り組むことで、地域福祉の増進に寄付することを目的として活動を行つた。

会員：市内 9 社会福祉法人（喜峰会、泰耀、湯寿会、なごみの郷、南陽園、  
陽翠水、佛子園、めばえ保育園、能美市社会福祉協議会）

## (2) 見守りネットワークの推進

① ふれあい弁当を実施した。

・一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯等に対し、のみ社会福祉法人連絡会の会員法人が調理する「ふれあい弁当」を民生委員・児童委員、福祉推進員等が配達することにより、見守るための訪問の機会につなげた。(1食 200円)

実施回数：月2回（第1・3水曜日）3地区合計63回実施

根上地区	利用実人数 延べ提供食数 延べ協力ボランティア数	19名 337食 135名
寺井地区	利用実人数 延べ提供食数 延べ協力ボランティア数	17名 287食 160名
辰口地区	利用実人数 延べ提供食数 延べ協力ボランティア数	12名 241食 152名

※1月分のお弁当には福梅を添え、利用者にお正月の雰囲気を味わってもらった。

※中学生のボランティア活動として弁当を配達する「ふれあい訪問」を実施。

寺井地区 10月4日(水)(もみじ弁当)40名

辰口地区 3月6日(水)(ひな弁弁当)28名

・産前・産後2カ月までの方がいる核家族世帯に対し、のみ社会福祉法人連絡会の会員法人が調理する「子育て応援弁当」を主任児童委員が配達することにより、子育てを地域で応援した。(1食250円 3食目350円)

実施回数：年間66回（毎月6回 第1～4水曜日、第2・4金曜日）

利用実人数：24名

延べ提供食数：557食

## (3) ふれあいの場や交流の場づくりの推進

① 親子サロン（親子がふれあう場づくり）を開催した。

市内3会場で、就学前の子どもとその親・祖父母等が、気軽にふれあい、ほつとできるような集う場を運営した。子育て経験をもつ市民7名をスタッフとして雇用し、経験を活かしてママ友相談も併せて行う機会もつくった。

	施設名（会場）	開催日と開催回数	延べ参加者数
根上会場	西二口町公民館 (西二口コミュニティセンター)	毎週水曜日・44回	282名・146組の親子
寺井会場	栗生コミュニティセンター	毎週木曜日・44回	337名・153組の親子
辰口会場	岩内コミュニティセンター	毎週火曜日・46回	272名・122組の親子
※ミニ運動会 5月23日(火)寺井中央児童館にて開催			44名・18組の親子

※かえっこまーけっと みんなでリユース！ (親子サロンと同時開催) 6月7、14、21日(水)、10月4、11、18、25日(水) 西二口町公民館にて開催	6月 39名 10月 77名
※絵本カフェ 9月2日(土)西二口町公民館(コミュニティセンター) 12月9日(土)市地域共生交流館 2月25日(日)ふれあいプラザ(のみんひろば)	46名 165名 80名

②ほっとあんしんサロン（介護をしている（していた）方々の思いを語り合う場づくり）の開催を支援した。

介護者の日頃の介護に対する思い、老年期を迎える不安等について、思いを語り合う機会として、年11回、毎月第2水曜日にふれあいプラザにて能美市介護を考える会と連携して開催され、延べ参加者は87名であった。

③福耳ネット、ぬくもりサロン（聴覚・視覚等コミュニケーションに不都合な方がふれあい集う場づくり）を開催した。

サロン名	開催日・開催回数	会 場	延べ参加者数	内 容
聴覚に不都合のある方のつどい「福耳ネット」	第4水曜日 年11回	寺井地区公民館	26名	交流と情報交換 福耳サポート隊の協力
視覚に不都合のある方のつどい「ぬくもりサロン」	9月26日(火) 10月24日(火) 11月17日(金) 12月15日(金)	ふれあいプラザ 小松市自生園見学・道の駅こまつ木場潟 ふれあいプラザ ふれあいプラザ	20名	交流と情報交換 ボランティアほおづきの協力

④ふれあい福祉交流会は中止した。

※レクリエーションを通じ、障がいや認知症の有無にかかわらず、ふれあい交流する場  
福祉関係団体による実行委員会準備会において、コロナ禍のために中止を決定

⑤福祉バスを貸出した。

福祉バス1台を地域福祉委員会いきいきサロンが実施する一人暮らし高齢者等のおでかけサロン等、外出の機会を支援した。(貸出:57回)

⑥ここに寄り添い合う人づくり講座（ここに寄り添い合う人づくり委員会主催）を開催した。

開 催 日：2月24日(土)

会 場：ふれあいプラザ

内 容：身体障がいのある方の思いを聞き、ここに寄り添い合う意識づくりの機会とした。

参加人数：83名

\* その他、放課後児童クラブと放課後等デイサービスに通う児童がボッチャ体験を通して交流を行った。(年間4回)

#### (4)生活支援体制の基盤整備の推進(生活支援コーディネーター12名の配置)

- ①1層（市全体を単位とする）生活支援コーディネーター1名を設置した。
- ②2層（中学校区を単位とする）生活支援コーディネーター11名の計12名を配置し地域での生活支援の取り組みを進めた。市生活支援サービス推進協議体と連携した。
- |                     |     |
|---------------------|-----|
| 地区別2層生活支援コーディネーター会議 | 12回 |
| 1、2層生活支援コーディネーター会議  | 3回  |
- ③フードドライブ・フードパントリーを実施した。
- 生活困窮や支援を必要な子育て世帯等への支援としてフードドライブを実施した。寄付された食品は、くらしサポートセンターのみを通して支援を必要としている方や子ども食堂へ渡した。
- フードドライブの実施：3回（1回目9・10月、2回目12月、3回目3月）
- その他、隨時 能美市社会福祉協議会窓口 計8,355品
- 企業・団体からの寄付：北陸電力株式会社小松支店、日本ガイシ株式会社総務部石川総務グループ、NGKセラミックデバイス株式会社、前田製菓株式会社、アルビス辰口店、カーブス能美寺井、のみ商業協同組合、辰口校下婦人会、のみ社会福祉法人連絡会、大成町内会、泉台町地域福祉委員会、能美市立宮竹小学校、能美市立根上中学校、市生活環境課（敬称略・順不同）
- フードパントリーの実施：6回 \*詳細はP22, P24参照

- ④つなぐ号貸出事業を実施した。（買い物や外出支援活動の支援）

町（内）会（地域福祉委員会）の買い物・外出支援の活動を対象に、本会が借り受けた市商工まちづくり研究会所有の車両と、能美市より生活支援車両の運営を受託し、合わせて2台を貸し出した。

貸出先：粟生リンクの和、能美市介護を考える会

貸出実績：52回

延べ利用者：273名

### 3. 福祉意識の醸成のための福祉教育の推進と住民の互助活動の支援

#### (1)ボランティア・コミュニティ活動支援センターの運営(ボランティアコーディネーターの配置)

ボランティア・コミュニティ活動支援センターを運営し、福祉の人材づくりや地域づくりを進めた。「ボランティアだより」を作成しホームページにて、ボランティア情報を発信した。

- ①ボランティアに関する相談窓口

〈登録〉 86グループ 3,041名 (R6.3.31現在)

〈相談・斡旋〉 84件

〈ボランティア保険加入支援〉

・ボランティア活動保険 基本保険：2,266人 天災保険：12人

・ボランティア活動保険助成 基本保険：1,994人 助成額：697,900円

\*行政（市町）からの助成がある場合などは対象外。助成要件あり。

\*基本保険加入に助成（掛金350円 市社協150円と県社協200円を負担）

・ボランティア行事用保険（自己負担） 80件

〈ボランティア器材の貸出〉 160 件

	貸出内容	器材等	件数
1	町(内)会のふれあい行事 (いきいきサロンを含む)	綿菓子機・ポップコーン機・かき氷機・プロジェクター、ストラックアウト等	100
2	学校等での福祉体験	車いす	14
3	ボランティアグループの活動	アンプ、マイク、DVD	12
4	福祉施設	車いす・輪投げ	12
5	要介護の移動	車いす	8
6	その他、個人への貸し出し	車いす	14
	合 計		160

〈各種の収集窓口（ボックス）の設置〉

老人福祉センター白寿会館、G-Hills、ふれあいプラザに収集窓口としてボックスを設置した。

収集物	収集取扱い団体	送付先	使途
プルタブ	能美市社会福祉協議会 ボランティア・コミュニティ活動支援センター	令和5年度に集めたプルタブは、合計約39・5kg 金属廃品回収業者に売却、換金し、施設等に福祉用具を寄贈するための資金として積み立てた。	
ベルマーク	ボランティアグループ 「山ぼうしの会」等	ベルマーク財団へ	ベルマークは1点1円になる。一部は発展途上国の教育支援に使われ、一部が集めた地域の学校教育備品の購入に使われる。
使用済インクカートリッジ	石川県社会福祉協議会ボランティアセンター	キャノン・エプソン・リコーなどの企業へ	使用済インクカートリッジの回収を通じて、ベルマーク運動に参加。使途はベルマークに同じ。
古切手、書き損じハガキ		公益財団法人ジョイセフ（家族計画国際協力）へ	アジア・アフリカ中南米の発展途上国の保健活動（予防接種や保健師の活動）の助成に使われる。
使用済プリペイドカード等			

- ②福祉教育の推進及び福祉の人材育成のために、各種ボランティア講座を開催し、ボランティアへの関心を掘り起こし、その活動を支援した。

事業（講座）名	実施月・回数	参加人数	内 容
ジュニアボランティア クラブ	11～12月 (全4回)	小学生と その保護者 計 28名 延べ 62名	市内社会福祉法人の協力を得て企画 • ボランティア入門 • 地域にある福祉施設の取り組みについて • 障がいのある方々のお仕事体験 • 車いす体験や高齢者施設の利用者の方々 とのふれあい交流 • 障がい者週間のイベントに協力 • 歳末たすけあい街頭募金活動
中学生ボランティア チャレンジ体験	9月～11月	全校生徒 に呼びかけ	①中学校生徒会が自分たちで体験を企画 <b>【根上中学校】</b> • 「フードロス食品回収活動」 フードドライブ活動、食品の仕分け作業 <b>【寺井中学校】</b> • 「寺井中ボランティア大作戦」 コンタクトケース・エコキャップ・プルタ ブの収集 <b>【辰口中学校】</b> • 「辰口クリーンプロジェクト」 中学校周辺のゴミ拾い活動 ②能美市民ボランティアフェスティバルの 運営スタッフ体験
高校生ボランティア チャレンジ体験	9月	延べ 41名	<b>【プログラム1】</b> • 聴覚障がいの理解と手話講座 新田 照予 氏、清水 愛香 氏 塚 よしの 氏 • 能美市民ボランティアフェスティバル のステージで手話うたを合唱 <b>【プログラム2】</b> 能美市民ボランティアフェスティバル の運営スタッフ体験

- ・福祉協力校に指定、活動助成をした。
- ・市内 6 小学校（2 校は県社協指定校）、3 中学校、1 高等学校を対象とし、総額 980,000 円を助成した。
- ・福祉協力校連絡会を開催した。

日 時：8月 10 日（木）13 時 30 分～15 時

会 場：寺井地区公民館 大ホール

参加人数：41 名

講 演：福祉教育における学校と地域連携について

講 師：motto ひょうご 事務局長 栗木 剛 氏

- ・福祉協力校における福祉教育カリキュラムなどに情報提供するなどし、支援した。（講師の派遣、情報提供）

③ボランティアグループ9グループの活動に対し計350,000円を助成した。

(要件有：共同募金財源による)

寺井民児フレンドサークル(20,000円)、ウクレレサークル nomilele (50,000円)、  
栗生町歩歩笑美くらぶ(40,000円)、中庄町丸いも娯楽会食育グループ(20,000円)、  
オカリナ倶楽部九谷まほろば(50,000円)、辰口地域更生保護女性会(20,000円)、  
護美ワーキンググループ(50,000円)、能美美育ネットワーク(50,000円)  
のみ♡子育てネットワーク(50,000円)

④市ボランティア連絡協議会の活動を事務局として担当、支援した。

(能美市ボランティア連絡協議会情報誌「ボラはあと」の年2回発行支援含む)

⑤第16回能美市民ボランティアフェスティバルを開催した。

市民の福祉・環境・健康・生活と多岐にわたるボランティア活動に取り組んでいる  
グループや個人が一堂に会し、その活動を広く市民に情報発信するボランティア  
フェスティバルを市民による実行委員会形式で開催した。

開催日：9月23日(土・祝)

会場：根上総合文化会館

参加団体：69団体

参加人数：約800名

⑥一人暮らし高齢者等へ傾聴ボランティアを派遣した。

傾聴ボランティアの訪問	石川県が、H23年度に開催した傾聴ボランティア養成講座の受講修了生が、能美市で傾聴ボランティアとして登録、活動した。 また、傾聴ボランティア「うなづき」の年間6回の専門研修や連絡会の実施を支援した。	訪問対象者は7名 (一人暮らし高齢者等) 登録した傾聴ボランティアは21名 年間38回訪問
-------------	--	--

⑦視覚障害のある方へ広報「のみ」等の音訳テープを提供した。

音訳テープの提供	視覚に不都合のある方に対し、音訳ボランティアたんぽぽの協力を得て、広報のみ、議会だより、社協広報誌ほほえみをテープに音訳、提供了。	各図書館に音訳テープを設置
----------	---	---------------

#### 4. 生活上の多様な問題の相談窓口の開設及び生活支援サービスの提供

(1)寺井あんしん相談センターの運営・・・別記1 P.18 ~ P.21

(2)くらしサポートセンターのみの運営・・・別記2 P.22 ~ P.25

#### 5. 居宅介護支援事業所の運営

(1)能美市社会福祉協議会能美居宅介護支援事業所の運営・・・別記3 P.26 ~ P.27

## 6. 老人福祉センターの管理運営

### (1)老人福祉センター白寿会館の管理運営

①老人福祉センター白寿会館を運営した。運営状況は以下のとおり

	開館日数	延べ利用者数
白寿会館	235 日	13,687 名

※改修工事の為、11月は全館休館

## 7. 能登半島地震に伴う被災者支援

### (1)避難所見守り・相談支援等事業

(令和6年1月4日～) 能美市

①令和6年能登半島地震において能美市に避難してきた人の生活支援を行った。

- 巡回相談

場 所	巡回数	延べ相談件数
辰口福祉会館	13回	51件
たがわ龍泉閣	10回	19件
まつさき旅館	9回	18件
スーパーホテル	7回	3件
B&B NEAGARI	1回	0件

- 生活サポート窓口業務（於能美市役所）（1月22日～2月9日で終了）

延べ派遣件数 30件（午前・午後各1件）

- ボランティアマッチング・派遣

マッチング（ボランティア）数 28グループ・個人  
(生活支援7・交流19・炊き出し2)

- 避難者送迎サービス業務

延べ送迎件数 44件 実稼働日数 32日

- 被災者相談支援事業（寺井あんしん相談センター）

延べ相談件数 132件 実相談件数 28件

### (2)生活福祉資金(緊急小口資金)特例貸付

(令和6年1月22日～) 県社会福祉協議会

①県社会福祉協議会では、能登半島地震により被災し、当座の生活費を必要とする世帯に対して、緊急小口資金特例貸付の受付を行っている。市社会福祉協議会が窓口となり相談や支援を行った。

延べ相談件数 20件

申請件数 9件

貸付件数 9件

### **(3)被災地災害ボランティアセンターへの職員派遣**

県社会福祉協議会（令和6年1月15日～）

穴水町災害ボランティアセンター派遣日数 10日 派遣人数 10人（実働6人）

七尾市災害ボランティアセンター派遣日数 8日 派遣人数 8人（実働4人）

能登町災害ボランティアセンター派遣日数 43日 派遣人数 46人（実働12人）

### **(4)被災者見守り・相談支援等事業**

石川県（令和6年3月1日～）

生活支援相談員によるみなしふ設住宅入居者への全戸訪問を行い、必要な支援を専門機関につなぐなどし、被災者の生活再建や自立を支援した。

・みなしふ設住宅入居世帯 27世帯（3月分）

※ 4月は26世帯、5月は10世帯が順次対象となるが、既に退去された世帯もあり5月1日現在で、61世帯が対象

## 【能美市寺井あんしん相談センター 事業報告】

### 1. 総括

高齢者や障がい者及び生活困窮者・ひきこもり等の総合相談窓口の拠点となれるよう、あんしん相談センターの事業の運営を能美市より受託し、相談に応じ、支援した。また、自立支援・重症化予防を基本とした介護予防プランの作成及び、能美市地域包括ケアシステムの構築を推進した。

### 2. 事業状況

#### ①総合相談支援業務

- ア 高齢者や障がい者及び生活困窮者・ひきこもり等の相談を包括的に受け止め、実態把握を行い、関係機関に繋いだ。
- イ 複数の課題を抱える世帯に対し、関係機関と連携、課題を共有すると共に、必要に応じて地域ケア会議を開催し、課題解決に向けての支援の方向性を検討した。

#### ②権利擁護業務

- ア 成年後見制度・権利擁護に関する相談に応じ、くらしサポートセンターのみと連携し、成年後見制度の広報・周知を行い、成年後見制度や福祉サービス利用援助事業の利用に繋ぐ働きかけを行った。
- イ 高齢者虐待については、相談 4 件中、4 件を能美市の虐待判定会議に繋ぎ、虐待対応計画に基づいて対応した。また、虐待通報がされにくい中、総合相談の段階からアンテナを立て、早期発見を心掛け、成年後見制度の相談等も併せて、権利侵害の防止や早期対応に努めた。

#### ③包括的・継続的ケアマネジメント支援

- ア 各地区あんしん相談センターが連携してケアプラン会議を開催し、自立支援を目的としたプランの検討及びプランを作成する介護支援専門員に対し支援・指導をした。また、介護支援専門員が相談しやすい対応を心がけ、困難事例を一人で抱え込まないよう支援し、相談に応じ、必要時、センター内で討議を図り、困難事例検討会や支援チーム会議の活用の提案、地域ケア会議の開催等に繋げるなどした。
- イ 地域における連携・協働の体制づくりのため、地域ケア会議を手法とし、個人や地域の課題を発見し、地域づくりに繋がるよう話し合いをした。また、民生・児童委員や町会長等の地域の関係者、医療や介護の専門職、CSW など多職種の関係機関とのネットワーク作りを推進した。

#### ④介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント支援業務

- ア 要支援者や事業対象者が、主体的に介護予防・自立支援に取り組むために、自己選択、決定できるよう配慮しながら介護予防プランを作成し、支援した。
- イ 一般介護予防事業の地域介護予防活動支援事業である、「おげんき倶楽部のみ」や「のみ活倶楽部」に出向き、参加者の状況を把握するとともに、介護予防の普及啓発に取り組んだ。

#### ⑤地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み

- ア 地域生活医療コーディネーター、第二層生活支援コーディネーター、認知症地域支援推進員、地域ケア会議推進員関係にそれぞれ担当職員を配置するとともに、在宅医療と介護連携の充実を推進する専門部会「メモリーケア・ネットワーク能美」、強い互助づくりの支援体制を構築する専門部会「生活支援サービス推進協議体」と連携し、積極的に課題に取り組んだ。
- イ 寺井地区を単位とした日常生活圏域会議を1件、関係機関を単位とした課題別検討会議を11件、個別のケースに関する関係者が参加するネットワーク会議を45件開催した。日常生活圏域会議では、あんしん相談センターの活動報告を行い、相談内容からみえてきた課題について報告し、今後の支援に繋げることを圏域関係者で確認した。また、参加者でもしバナゲームを行い、アドバンス・ケア・プランニング（人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセス）の理解を深め、終末期の方への支援を考える機会を持った。
- ウ 地域での出前講座6件を開催し、介護予防に対しての啓発、理解を広げた。

#### ⑥職員の資質向上

- ア 県、市、各職能団体等が実施している研修会に積極的に参加した。研修参加後は復命書を回覧することでセンター職員全員が共有し、必要な知識や技法等の取得に努めた。

#### ⑦令和5年度の重点的な取り組み

- ア 介護予防の取り組みを強化するため、いきいきサロンやのみ活倶楽部、他の地域活動の場に積極的に出向き、参加されている高齢者の年齢層や状態等を把握するとともに、活動を支援している方々から運営状況や課題等の聞き取りを行った。また、総合相談を通じて、地域で行われている会に参加されていない方々について個別の実態把握を行い、情報を収集とともに、介護予防の啓発及び介護予防教室につなぐ働きかけを行った。
- イ あんしん相談センターの周知活動を行い、早期に相談に繋がるように、出前講座や地域福祉委員会、介護予防教室や各関係団体との会合などの機会を利用し、チラシやパワーポイントなど媒体を用いて周知を図った。
- ウ 地域や関係者の連携が強化できるように、地域ケア会議や地域の関係者を交えた多職種が参加する事例検討研修会を開催し、個人や地域の課題を地域の関係者と専門職が共有し、お互いの役割を理解し、連携・協働することを話し合った。

## 令和5年度 能美市寺井あんしん相談センター 実績報告

### 1. 実態把握件数

	65歳以上		64歳以下	
	延べ件数	新規件数	延べ件数	新規件数
① 継続支援が必要	3,352	185	203	12
② 相談終結	105	0	6	2
③ 關係機関へ繋いだ	0	0	6	1
④ 相談支援包括化推進へ繋いだ	0	0	0	0
⑤ 相談のみで終結	0	0	4	0
⑥ 上記以外、死去・連絡途絶えた等、中断	0	0	1	0
合 計	3,457	185	220	15
実体把握件数(相談票実件数)		1,865		145

※ 前年度 延べ件数 3,314 総実件数 1,625 総新規件数 205

### 2. 実態把握・相談の状況

#### 延べ件数

	窓口	電話	訪問	高齢者福祉訪問	その他	合計
64歳以下	23	128	50	0	19	220
65歳以上	530	1,859	873	16	179	3,457
合 計	553	1,987	923	16	198	3,677

### 3. 地域活動支援・出前講座等の状況

	出務・支援件数
いきいきサロン	25
のみ活倶楽部	17
地域福祉委員会	52
お元気倶楽部のみ	5
出前講座	6
市と合同で行う出前講座	2
ケアマネ研修会	2
認知症サポート養成講座	0
地区内介護事業所運営推進会議出務	16
その他	11
合 計	136

※ 前年度 78

### 4. ゆるやかな見守り・緊急時等対応・訪問件数

	出務・支援件数
ゆるやかな見守り	2
複数出ないと危険を伴う対応・ 緊急対応職員数(日中)(電話を除く)	75
障害のみ	10
緊急時対応職員数(夜間・休日) (電話を除く)	6
高齢者を含む 障害のみ	0
合 計	93

### 5. 地域ケア会議(高齢者を含む障がい者、困窮者等)

	件数
ケアプラン会議人数	154
ネットワーク会議(高齢者を含む)	40
ネットワーク会議(障害のみ)	5
課題別検討会議(コーディネーター会議)	11
日常生活圏域会議	1
事業所連絡会・地域包括支援センター運営会議等	4
メモリーケア・ネットワーク能美関係	32
合 計	247

### 6. 連絡調整業務の状況

	件数
介護認定申請受付	333
高齢者福祉に係る受付	
配食サービス事業	11
緊急通報システム設置事業	1
認知症高齢者見守りSOSネットワーク	2
のみ・みまもりあいアプリ	3
その他高齢者福祉サービス	31
障害者福祉に係るアセスメント・受付件数	1
住宅改修申請書作成	21
福祉用具購入理由書作成	10
日常生活用具等貸与事業	35
合 計	448

※前年度

276

## 7. 介護予防支援

	直営プラン	外部委託 プラン	委託料支払額 (A)	合計プラン件数	合計収入額 (B)	センター収入 (B) - (A)
4月	21	51	215,530	72	324,360	108,830
5月	22	50	216,300	72	333,360	117,060
6月	22	50	216,300	72	330,360	114,060
7月	22	50	228,000	72	339,360	111,360
8月	23	51	225,330	74	342,120	116,790
9月	25	48	198,240	73	325,740	127,500
10月	29	44	199,442	73	340,740	141,298
11月	27	42	178,380	69	303,840	125,460
12月	25	38	156,957	63	280,320	123,363
1月	25	45	215,279	70	345,600	130,321
2月	25	41	174,249	66	301,080	126,831
3月	26	48	208,063	74	336,120	128,057
合計	292	558	2,432,070	850	3,903,000	1,470,930
前年度	238	571	2,492,400	809	3,722,040	1,229,640

## 8. 介護予防ケアマネジメント

	直営プラン	外部委託 プラン	委託料支払額 (A)	合計プラン件数	合計収入額 (B)	センター収入 (B) - (A)
4月	23	14	39,550	37	109,310	69,760
5月	26	14	39,550	40	119,950	80,400
6月	24	15	49,680	39	118,570	68,890
7月	26	15	46,680	41	124,580	77,900
8月	29	16	52,710	45	150,350	97,640
9月	23	16	55,320	39	119,320	64,000
10月	24	15	51,194	39	110,820	59,626
11月	23	11	39,893	34	104,920	65,027
12月	25	11	34,991	36	107,930	72,939
1月	24	11	34,992	35	100,800	65,808
2月	24	11	39,894	35	104,550	64,656
3月	24	12	39,122	35	99,930	60,808
合計	295	161	523,576	456	1,371,030	847,454
前年度	248	163	548,350	411	1,292,180	743,830

介護予防報酬収入合計

5,274,030

2,318,384

## 9. 介護予防ケアマネジメント 内訳

	スマイルヘルパー / スマイルデイサービス	健幸ライフ教室 / 健幸ライフ訪問リハビ リ	あんしんサポーター /はつらつデイサー ビス	たすけあいサポー ター / ほがらか会
4月	12	5	17	4
5月	12	4	18	5
6月	12	4	19	4
7月	12	4	20	4
8月	14	6	21	4
9月	13	4	18	4
10月	12	3	20	4
11月	10	4	16	4
12月	10	5	16	5
1月	10	3	16	6
2月	11	4	16	5
3月	12	3	15	6
合計	140	49	212	55
前年度	135	52	168	56

## 【くらしサポートセンターのみ 事業報告】

### 1. 総括

様々な問題により日常生活を送ることが困難に感じている方などに対し、生活困窮者自立相談支援事業を軸として、各種の相談事業と一体的に取り組み、社会的孤立者や経済的に困窮する恐れのある方が、困窮状態からの早期の脱却や権利を守られながら、住み慣れた地域で安心、安全に生活できることを目標に、本人の状態に応じた包括的かつ継続的な相談支援を実施した。

### 2. 事業状況

#### ①生活困窮者自立相談支援事業

##### ア 自立相談支援事業の実施

生活困窮者の困りごとに関する相談に幅広く応じ、相談者の状況に合わせた自立に向けた支援計画を作成し、就労支援を行う等、伴走による支援を行った。

##### イ 家計改善支援事業の実施

家計に問題を抱える世帯に対し、相談者とともに家計の状況を明らかにして課題を把握し、家計の改善の意欲を引き出せるよう相談支援を実施した。

##### ウ 支援調整会議

毎月開催し、関係者による支援計画の検討、情報共有、連絡調整を行った。

##### エ 民生委員・児童委員等の地域の支援者や、あんしん相談センター、相談支援事業所、居宅介護支援事業所等の地域の様々な関係機関と連携し、ネットワークづくりに取り組んだ。

##### オ 生活困窮者に対して、生活状況に応じて個別にフードドライブの食糧を配付し、生活が維持できるよう支援した。また、フードパントリーを開催し、支援を必要としている方々に食糧を配付するとともに、相談窓口の周知を行った。

#### ②福祉サービス利用援助事業の実施

高齢や障がいなどで判断能力に不安のある方や日常生活に不安のある方が、地域で安心して生活ができるように、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭の管理等を支援するとともに、必要に応じて関係機関と連携を図った。また、利用者の状態の変化により支援が困難になったときには、成年後見制度の利用の移行支援を行った。

#### ③能美市福祉資金貸付事業及び石川県生活福祉資金貸付事業（石川県社会福祉協議会より受託）の実施

##### ア 能美市福祉資金では、低所得世帯等に対し、経済的自立と生活意欲の助長、促進を図るために、資金の貸付を行った。

##### イ 石川県生活福祉資金では、所得が少ない世帯、障害者世帯、高齢者世帯、失業された方等が安定した生活が送れるように、資金の貸入に関する相談支援を行った。また、令和6年能登半島地震で被災した世帯の生活福祉資金特例貸付の受付窓口として相談支援を行った。

ウ 新型コロナウイルス生活福祉資金特例貸付の償還に関する相談窓口を周知するとともに、借受人のフォローアップ支援を行った。また、相談の中から生活困窮者自立相談支援事業に繋げ、困窮状態から脱却できるよう支援した。

④歳末お見舞金の贈呈

歳末時にあたたかいお正月を迎えるよう、歳末助け合い募金の配分金を財源とし、福祉施設入所者等の方々に、民生委員・児童委員の協力を得てお見舞金をお贈りした。

⑤弁護士・行政書士の無料専門相談等事業

弁護士や行政書士が、日常生活の中で起きる法律に関わる問題について、無料で相談に応じた。

⑥心配ごと相談所の運営

民生委員・児童委員や人権擁護委員、行政相談委員が相談員として、市民の日常生活上のあらゆる相談に応じ、適切な助言、指導を行い、住民の福祉の増進を図った。

⑦成年後見制度利用促進事業の実施

ア 認知症や知的障害、精神障害等で判断能力が不十分な方々の権利を擁護するために、中核機関として成年後見制度の周知、利用に関する相談支援を行った。また、制度利用後も後見人等へのバックアップ体制として活動支援を行った。

イ 市民に対してセミナーを開催し、成年後見制度の理解を深めた。

\*成年後見セミナー 令和6年2月29日（木） 参加人数19名

ウ 金融機関をはじめ、市内病院や介護・障害事業所等に成年後見制度利用検討ガイドラインを配付。また出前講座を行い、制度について周知啓発した。

エ 地域や福祉、医療、金融、行政に司法を加えた、多様な分野・主体が連携する、権利擁護支援の地域連携ネットワークづくりを目的とした会議（能美市成年後見地域連絡協議会）を開催した。

\*第1回地域連絡協議会 令和5年6月29日（木）

\*第2回地域連絡協議会 令和6年3月14日（木）

⑧生活支援たすけあい・ライフサポーター（介護予防・日常生活支援総合事業のうち、訪問型サービスB（住民主体による援助））の派遣

ア 1～6期受講修了生による「たすけあい・ライフサポーターえがお会」の研修会等、その活動を支援した。

イ あんしん相談センターからの依頼に応じて「たすけあい・ライフサポーター」を派遣した。

⑨福祉移送サービスの運営

公共交通機関を利用しにくい方の移動を車いす対応車で支援した。（要件有）

## 令和5年度 くらしサポートセンターのみ 実績報告

### ①生活困窮者自立相談支援事業

- ◎自立相談支援事業プラン件数 24 件
- ◎家計改善支援事業プラン件数 24 件
- ◎相談件数

	新規件数	実件数	延べ件数
4月	7	33	94
5月	5	58	142
6月	9	65	171
7月	5	56	167
8月	5	64	172
9月	6	41	145
10月	9	53	134
11月	5	63	119
12月	8	75	158
1月	3	46	89
2月	7	30	88
3月	5	78	125
合計	74	662	1,604

### ◎新規年代別内訳

20代	5
30代	4
40代	8
50代	16
60代	8
70代	18
80代	5
不明	9

### ◎新規男女別内訳

男性	37
女性	37

### ◎食糧支援

- \*パントリー 6回 (内、子ども学習応援パントリー3回)
- \*生活困窮者個別支援 (事業所等からの個別支援依頼含む) 417回
- \*団体への配布 44回

団体名	利用回数
能美子ども食堂ネットワーク	10
能美市国際交流協会	12
行政 (福祉課、いきいき共生課)	20
その他	2
合計	44

### ②福祉サービス利用援助事業

#### ◎契約件数

認知症高齢者等	知的障害者等	精神障害者等	その他	合計
17	5	8	1	31

### ③生活福祉資金貸付事業

#### ◎能美市福祉資金 利用件数 6 件

#### ◎石川県生活福祉資金

資金の種類	件数
福祉資金 (福祉費・緊急小口資金)	35
教育支援資金	4
総合支援資金	18
離職者支援資金	3
臨時特例つなぎ資金	2
合計	62

延べ相談件数	112
--------	-----

- ◎『新型コロナ生活福祉資金特例貸付』 緊急小口資金・総合支援資金の償還に関する支援  
 \*周知 社協広報・ホームページに相談窓口の掲載、対象者へ案内を発送し周知  
 \*訪問・架電による状況確認・相談支援

延べ相談件数	205
--------	-----

- ◎『令和6年能登半島地震生活福祉資金特例貸付』 緊急小口資金  
 \*相談・申請（令和6年2月～令和6年3月末）

	延べ相談件数	申請件数	貸付件数	決定金額（円）
市内	16	6	6	900,000
市外	4	3	3	500,000
合計	20	9	9	1,400,000

④歳末お見舞い金贈呈事業

- ◎贈呈件数（一律5,000円）

在宅対象者	福祉施設入所者	合計	総額（円）
212	80	292	1,460,000

⑤弁護士・行政書士の無料専門相談等事業

- ◎弁護士無料法律相談

実施回数	相談件数
36	133

- ◎行政書士無料相談

実施回数	相談件数
12	36

⑥心配ごと相談所の運営

- ◎相談件数（各地区毎月1回 合計36回実施）

根上地区	寺井地区	辰口地区	合計
7	14	13	34

⑦成年後見制度利用促進事業

- ◎相談件数

認知症高齢者等	知的・精神障害者等	その他	合計
16	5	15	36

- ◎出前講座の開催

金融機関	福祉施設	医療機関	合計
3	3	1	7

⑧たすけあいライフサポーター（訪問型サービスB）

- ◎利用件数

利用者数	派遣件数（延べ）
5	119

⑨福祉移送サービス

- ◎利用件数

登録者数	延べ利用件数	稼働実日数
20	112	50

## 【能美市社会福祉協議会能美居宅介護支援事業所 事業報告】

### 1. 総括

平成17年の合併前より、根上・辰口町の両社会福祉協議会で、それぞれ居宅介護支援事業に取り組んできたが、社会福祉協議会として、新たな事業へのスキルを持った職員の配置転換及び、単独介護保険事業所の経営による介護報酬の収支不均衡に伴う経営状況から、令和5年8月末の休止を得て、令和6年3月末をもって廃止とした。

### 2. 運営状況

年度当初は1名体制で運営していたが、令和5年8月末で休止、その後令和6年3月末で廃止とした。利用者は8月末の休止までの5か月間で、他事業所へスマーズな移行ができた。

### 3. 事業状況

①介護サービスに関する相談では、介護保険の代行手続きや住宅改修等の各種相談に対応した。

②希望に沿ったケアプラン（居宅サービス計画）の作成では、利用者の心身の特性や置かれている状況を踏まえて、自立した日常生活が送れるように支援した。

また、24時間連絡体制を確保し、状況に合わせ調整を行った。

③能美市ケアマネジャー連絡会に参加することで地域のケアマネジャーとの情報共有や連携を図りながら、職員の資質向上に努めた。

④介護予防サービス計画、介護予防・日常生活支援総合事業に係る介護予防ケアマネジメントについては、各あんしん相談センターから受託した。

⑤能美市から要介護認定調査業務を受託した。

令和5年度 能美市社会福祉協議会能美居宅介護支援事業所 実績報告  
※令和5年9月～令和6年3月は休止

<収入>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計金額
要介護	362,420	228,640	96,520	0	0	0	0	0	0	0	0	0	687,580
要支援	8,260	8,260	8,260	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24,780
認定調査	5,940	8,910	2,970	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17,820
その他(住宅改修のみ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
収入計	376,620	245,810	107,750	0	0	0	0	0	0	0	0	0	730,180
累計	376,620	622,430	730,180	730,180	730,180	730,180	730,180	730,180	730,180	730,180	730,180	730,180	730,180

<利用者数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
要介護	32	20	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60
要支援	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
認定調査	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
その他(住宅改修のみ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
利用者計	36	25	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	71

<介護保険事業>

介護保険の要介護の方や家族の要望に基づき、居宅介護サービス月間計画(ケアプラン)を作成

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
作成件数	32	20	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60
(内訳)													
要介護1～2	27	17	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50
要介護3～5	5	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10

<受託事業>

※住宅改修業務:依頼なし  
予防プラン作成

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
件数	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
(内訳)													
認定調査受託	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	5